

つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 60号 2010.5.14 発行 社会政策研究所

平成 22 年 5 月 14 日 (金) 定例閣議案件の国会提出案件から

「平成 2 1 年度高齢化の状況及び高齢社会対策の実施状況」及び「平成 2 2 年度高齢社会対策」について (内閣府本府)

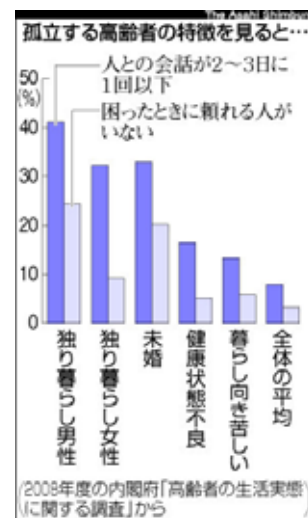
政府は、平成 2 2 年版高齢社会白書を公表しました。これを紹介する朝日新聞の記事と、高齢社会白書のコラムから 2 つ紹介します。【kobi】

高齢者の犯罪、10 年で 3 倍 白書「孤立が再犯の要因」 朝日新聞 2010 年 5 月 14 日

政府は 14 日、2010 年の「高齢社会白書」を閣議決定した。独り暮らしの高齢者の 3 割以上は終日、周囲と会話をしないことが日常的になっており、高齢者の社会的な孤立が進んでいる。一方、高齢者による犯罪が増えており、社会的孤立がその要因になっているという。

白書によると、65 歳以上は過去最高の 2 9 0 1 万人で、全体の 22.7% を占める (09 年 10 月現在)。10 年時点の独り暮らしの高齢者は 4 6 5 万人と推計される。内閣府の調査 (08 年度、60 歳以上の 3 3 9 8 人が対象) では、周囲との会話が電話やメールを含めて 2 ~ 3 日に 1 回以下という人が、独り暮らしでは 35.2% (男性 41.2%、女性 32.4%) だった。未婚の人も 3 人に 1 人の割合で、健康状態が悪い人や暮らし向きが苦しい人も、周囲との接点が乏しい傾向にある。困った時に頼れる人がいるかどうかでも、独り暮らしや暮らし向きが苦しいと、「いない」という割合が大きい。特に未婚者の 2 割は、頼れる人がいなかった。

一方、高齢者による犯罪は年々増加。08 年には 5 万件近くになり、10 年間で 3 倍になった。高齢者全体に占める犯罪者の割合も 2.3 倍に。万引きなど窃盗が約 3 分の 2 を占める。高齢者の犯罪者のうち 3 割が再犯で、社会的な孤立が犯罪を繰り返す要因だと指摘している。白書は孤立化を防ぐため高齢者同士の連携を強めることを提言。高齢者の 8 割が「手助けをしたい」と考えているという調査結果をもとに、サポート役の高齢者の養成を促している。(中村靖三郎)



高齢社会白書から二つのコラムを紹介します。

〔誰でも気軽に立ち寄れる「居場所」が増えている〕

自発的な人と人との交流があつてこそ、生涯を通じて生き生きと暮らすことができる。誰でも気軽に立ち寄って、おしゃべりしたり、お茶を飲んだりして時間を過ごせる場所づくりを目的とした取組が各地で広がりつつある。

気軽に立ち寄れる場所タイプや食事や喫茶をメインにしたカフェタイプなどの形態があり、高齢者向け、多世代対象向けなど対象者も開催頻度も実にさまざまである。

運営者は、住民グループや特定非営利活動法人、社会福祉協議会が多いが、お寺や社会福祉法人が主体になっているところもあり、ここでは違うタイプの3つの取組を紹介。

- ・ニュータウンの団地住民をつなぐ地域のカフェ「ふらっとステーション・ドリーム」(神奈川県横浜市戸塚区)は毎日オープンのカフェタイプの居場所である。ここには、サロン、カレッジ、情報相談コーナーの3つの機能が備わっている。
- ・商店街の一角にあるみんなの広間「茶話(さわ)やか広間」(千葉県流山市)は市の遊休施設を活用した場所提供タイプの居場所。平日の午前10時から午後4時まで、お茶・コーヒーを飲みながらの癒しの場として、高齢者、障害者、子育て中のお母さんから子どもまでが自由に集まってくる。
- ・地域住民と行政、福祉施設が連携して運営するタイプの居場所「八城しあわせサロン」(山口県下関市)では、月2回(第1・3木曜日)サロンを開催。利用者の意見をもとにプログラムを決定しており、現在は健康チェックや健康づくり体操、食事や歓談などを行っている。

〔見守りや安否確認の取組〕

(東京都日野市や(独)都市再生機構等の取組を紹介)

- ・日野市では、平成16年、高齢者の生活実態や見守り支援に関する意向等を把握するため、民生委員が市内に住む高齢者宅を一軒ずつ訪問する「ふれあい訪問調査」を実施し、支援の対象となりそうな高齢者像を12パターン、支援の内容を5パターンに整理した。
- ・その調査結果をもとに、平成17年度から段階的に、5パターンの支援を提供する「高齢者見守り支援ネットワーク事業」を開始。
- ・ボランティアからなる「ふれあい見守り推進員」が高齢者を対象に声かけや見守りを行っている。推進委員の見守り方法は2つあり、月に1回程度を目安に推進員が玄関先で高齢者に声かけ、週に1回程度の割合で、郵便受けに何日もたまった新聞がないか等さりげない見守り、を実施している。
- ・推進員による見守りに加えて、可燃ごみの回収時に見守りを行っている。連続3回ぐらい自宅前に可燃ごみを出していない世帯については、地域包括支援センターに連絡している。

平成22年版 高齢社会白書(概要版)は下記で

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2010/gaiyou/22pdf_indexg.html

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行